



福岡市政だより

令和4(2022)年

11/15

No.1720



福岡 何歳でも 100 チャレンジできる 未来のまちへ



今号の主な内容

- <特集>福岡100～一人一人が「幸せ」に生きるために～ **1-3**
- 新型コロナウイルス関連／原油価格・物価高騰に伴う支援 **4**
- 農林水産まつり **5**
- 若者のぶらっとホームサポート事業 **6**
- 情報BOX **7-14**
- 区版 **15-16**

※本紙掲載の情報は、11月1日時点のものです。
・中面折り込み「市議会だより」

<p>人口 1,631,409人 (前月比645人増) 男=769,685人/女=861,724人</p> <p>世帯数 857,512世帯 (前月比765世帯増) ※人口と世帯数は令和4年10月1日現在推計</p>	<p>面積 343.47km²</p> <p>ダムの貯水率 68.07% (11月1日現在)</p> 
<p>● 市役所代表電話 ☎711-4111 (市外局番は092)</p> <p>● 市政に関するご意見・要望・相談 広聴課 ☎711-4067 📠733-5580</p> <p>● 福岡市政だよりの配布 毎日メディアサービス ☎0120-359-303</p>	



SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、持続可能な社会の実現を目指す17の国際目標です。福岡市は、SDGsの達成に向けたさまざまな取り組みを進めています。

何歳でもチャレンジできる「未来のまち」へ

一人一人が「幸せ」に生きるために

福岡100

市は、「人生1000年代」に向け1000のアクション(事業・取り組み)を実践する「福岡100」を2017年にスタートさせました。誰もが心身ともに健康で自分らしく暮らせるまち、そして、何歳でもチャレンジできる「未来のまち」を目指し、取り組みをさらに加速させていきます。

2040年には、市に住む人の3人に1人が65歳以上の高齢者になると予想されています。

高齢化と少子化が進むこれらの急激な社会構造の変化に対応するため、市は、全国に先駆けて新たな社会システムづくりに挑戦しています。

1000番目のアクションは「福岡100」のアップデート

市は、市民の皆さんや大学、企業等と一緒に、AI、IoT、ビッグデータなどの先進技術を積極的に活用し、持続可能な制度や仕組みづくりを進めてきました。その結果、これまでに99の「アクション」を実践することができました。

節目となる100番目のアクションは「福岡100」を新しいものへとアップデート(更新)し、次のステージへと歩みを進めること」です。

健康寿命の延伸はもちろん、市民一人一人が、性別や年齢、生まれ育った環境、障がいの有無などに関わらず、自分にとっての「幸せ」や自己実現に向けて行動できる、持続可能な社会を目指します。

福岡100の新たな取り組み

Beyond Barriersプロジェクト

「Beyond Barriers」とは、「障壁を超える」という意味です。このプロジェクトでは、誰もが活躍できるまちを目指し、時間や距離、手段など、さまざまな制約を超えた自分らしい働き方ができる環境づくりに取り組みます。

●自宅にいながら社会参加を

市内には、重度障がいや難病、その他さまざまな理由で外出が困難な人がいます。



カメラ、マイク搭載の分身ロボット「OriHime」。遠隔操作で顔や腕を動かすことで感情を表現し、まるでそばにいるかのようなコミュニケーションが可能

11月30日(水)まで、博多区役所1階の博多の魅力発信コーナーで、外出が困難な人たちが博多の伝統工芸品の説明等を中心とした案内業務を行っています(平日午前11時～午後3時)。

12人がチームとなつて、1時間交代で来庁者をおもてなしします。来庁者は、ロボットを通じて会話をしたり、案内用のタブレット端末で補足情報を得たりすることが出来ます。



分身ロボット「OriHime」は博多区役所1階南玄関そばにあります。見かけたら、気軽に話しかけてください

チームの一員で、東区に住む白井美嘉さん(41)は「私は狭心症の持病があり、子どもを産んでから十数年間家にこもっていました。この仕事を通じて、自宅にいながら、いろいろな場所にいる皆さんと直接コミュニケーションを取ることができるようになりました。仕事の選択肢が増えて、社会参加ができて、とてもうれしいです。伝統工芸品に関するクイズを出題するほか、チームで各自の会話の内容などの情報を共有することで、さらに良いおもてなしができるよう工夫しています。12月から、デイサービスの利用者の皆さんの話し相手として、市内の高齢者施設の業務に従事します。またいろいろな人と話ができるのが楽しみです」と話しています。

シニア・ハローワーク ぶくおか

市福岡商工会議所ビル(博多区博多駅前二丁目)1階に、おおむね60歳以上の人向けの就業支援窓口を開設しています(平日午前9時半～午後5時)。



専門相談員がそれぞれのキャリアや適性に合った求人を紹介

シニア・ハローワーク ぶくおか ☎292-7989 ☒473-1734

福岡100・未来のまちへのアクション 年齢を重ねても活躍できるまちへ

シニア活躍応援プロジェクト

令和2年の国勢調査の結果によると、福岡市の総人口のうち、65歳以上の高齢者が占める割合は22.1%でした。



「博多弁を喜んでもらえたり、身振り手振りで海外のお客様と話せたりするのうれしいですね」と話す園田さん

高齢化が進行する今、シニアの皆さんが意欲や能力に応じて活躍できる環境が求められています。市は、無料のセミナーや個別相談、雇用先の開拓など、働きたいシニアと企業をマッチングする仕組みづくり、就業を応援しています。

この求人を見つけました。ホテルの業務は覚えることも多く大変ですが、お客様の笑顔を励みに元気に働いています。体が動く限り、仕事を続けていきたいです」と話してくれました。

中央区に住む園田政浩さん(71)は、9月から博多区中洲のホテルにサービススタッフとして、週3回、午後1時から5時間勤務しています。

同プロジェクトのジョブコーディネーター・福田哲也さん(63)は、「人生経験豊かで、細やかな気配りができるシニアの皆さんに、博多らしいおもてなしをしてもらいたいホテル側と、働く意欲があるシニア側の意向がうまくマッチしました。今後、このような雇用は増えていきそうです」と話しています。

園田さんは、「定年退職後、市が主催する就業セミナーに参加した。私は通信会社で長く営業職をしていたこともあり、人と話すのが大好きです。区役所の『シニアお仕事ステーション』で

問い合わせは、シニア活躍応援プロジェクト事務局(平日午前9時～午後5時) ☎433・7780 ☒287・9330)へ。

福岡100・未来のまちへのアクション 住み慣れた地域で暮らし続けるために

認知症フレンドリーシティ・プロジェクト

高齢者の7人に1人、90歳以上の3人に2人が認知症であるといわれています。市は、認知症の人が住み慣れた地域で、安心して、自分らしく暮らせるまをちを目指して同プロジェクトを立ち上げました。

認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」の講座を、家族介護者や専門職だけでなく、地域住民、児童生徒などにも展開し、その普及に取り組んでいます。さらに、「認知症カフェ」の開設促進や、GPS機器を活用した認知症の人の見守りなどに加え、認知症の人が社会参加し、活躍できる場所の創出にも力を入れています。

また、認知症の人を含む全ての人が安心してストレスなく暮らせるまちをつくるべく、



博多区役所のトイレに導入された、認知症の人にもやさしいデザイン

め、ユニバーサルデザインの理念に基づいた「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」を策定しました。

▽トイレの扉など目立たせたものは、周囲の壁や床とのコントラストをつける▽目線の位置に、分かりやすい文字とピクトグラムを掲示するーなど、簡単な工夫で、誰もが行動しやすく、より過ごしやすい環境をつくることのできる30のポイントをまとめています。

認知症の人にもやさしいデザインは、令和3年度末時点で市内29の公共施設や高齢者施設に導入されています。

認知症支援課 ☎711・4891 F733・5587

地域包括ケア情報プラットフォーム

医療・介護・健診等に関するデータを一元的に集約・管理・活用するための情報通信基盤「地域包括ケア情報プラットフォーム」を構築しました。約230種・43億件のデータを蓄積し、大学等と連携してその分析結果を活用することで、市民の健康寿命の延伸に向けた施策を推進しています。

「痩せ過ぎ」「同年代と比較して歩行速度が遅くない」「咀嚼力の低下」などが、市民の要介護状態の発生リスクを高める要素であることが令和3年度の分析結果で明らかになりました。その結果に基づき、市民の皆さんの健康増進のためのさまざまな

取り組みを実施しています。

政策推進課 ☎711・48

Fitness City プロジェクト



西鉄福岡(天神)駅北口に9月11日までの期間限定で設置された、上り下ると音が鳴る「巨大階段ピアノ」

市が令和元年に実施した市民アンケートによると、日頃の運動習慣(おおむね週1回以上)がない人の割合は、30〜50代の現役世代が最も多く、市民の健康を阻害している要因の一つとなっています。

「住むだけで健康になるまちづくり」に向け、公園や道路、駅など身近な環境を活用し、自然と楽しく体を動かしたくなる仕掛けや、仕組みづくりに取り組めます。右写真。

政策推進課 ☎711・48

オーラルケア28(にいほち)プロジェクト

歯と口の健康は、全身の健康や、食事・コミュニケーションなど日々の生活の充実に密接に関わる重要なものです。

市民の皆さんに28本(親知らずを除く)の永久歯を生体健康に保ってもらおうと、治療より

福岡100をもっと知ろう

福岡100のこれまでの取り組みや最新情報を、ホームページ(「福岡100」で検索)に掲載しています。また、次のような情報発信も随時行っています。

福岡100公式note

福岡ゆかりのタレントやクリエイターなどによる、福岡100のプロジェクト体験記やコラムなどを発信しています。

<https://fukuoka-city.note.jp/>

福岡市LINE公式アカウント

人生100年時代を豊かに暮らすための健康・暮らし情報やイベントのお知らせなどを発信しています。「受信情報」⇒「健康・暮らし等」を選択してください。



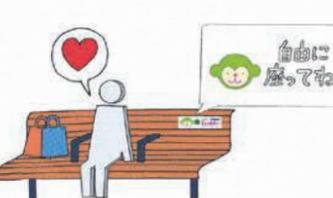
「友だち追加」はこちらから

買い物支援

も予防に重点を置き、世代ごと特性に応じた歯科口腔保健の取り組みを行っています。

福岡口腔保健支援センター ☎711・4396 F733・5535

ベンチプロジェクト



通称「おさるのベンチ」が市内各所に次々と設置されています

高齢化や世帯の単身化が進む中、日常生活に関する支援を要する高齢者等へ、特に日々の生活に欠かせない買い物への支援の必要性が高まっています。

市は、地域団体と連携しながら、▽買い物先への送迎▽臨時販売所の開設▽移動販売▽宅配ーなど、地域の実情に合わせた支援を行っています。

地域福祉課 ☎733・5346 F711・4232

ベンチプロジェクト

市は、高齢者や障がい者、妊婦、子ども連れの人などからの休憩需要にこたえるため、歩道上

100のアクションの達成はゴールではありません。一人一人が幸せに暮らせる「人生100年時代の未来のまち」をみんなどつくっていきましょう。

問い合わせ先/福岡100推進課 ☎711・4544 F33・5587

や市有地・民有地の道路沿いに誰もが快適に利用できるベンチの設置を進めています。全ての人が気軽に外出しやすい「ユニバーサル都市・ふくおか」の実現を目指します。

地域福祉課 ☎733・5344 F711・4232